

第53期（2005年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

日本語プログラムの拡充後2期目を迎え、全学日本語各コースの需要などにも配慮し、全体的なコース運営を行っている。日本語研修コースでは前期の反省をふまえ、初級前半程度の留学生にも対応できるように3クラス体制で運営することとした。

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生、教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、11ヶ国20名で、うち6名は日韓理工系学部予備教育生である。残り14名のうち、7名は教員研修生で、残りの7名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学12名、愛知教育大学2名であった。今回、名古屋大学進学者のうち1名（メキシコ：国際開発研究科）は、初級後半レベルであったが、研究活動のため全学向け日本語講座を受講した。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から国費特別コース5名（このうち4名は日本語未習者、1名は中級後半レベル）およびJICE（日本国際協力センター）支援無償留学生（JDS）8名（このうち2名は初級前半レベル、残りの6名は初中級レベル）の中から日本語研修コースには初級相当の6名を受け入れた。残りの7名については全学日本語プログラムの集中日本語コースを受講し、午後の1コマについてはJICE（日本国際協力センター）の資金協力を得て読解を中心とした特別クラスを設定した。他に学内からは工学研究科1名（バングラデシュ）、教育発達科学研究科1名（インドネシア）の合計2名受講申し込みがあり、面接の結果受講を認めた。

以上のように、第53期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生13名、学内推薦留学生8名の合計21名であった。

2. クラス編成

授業は、3クラス編成とし、専任教官2名（1名は6月新規着任者）、非常勤講師10名の計12名が担当した。

3. 時間割と日程

時間割は52期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月11日(火) 開講式、10月12日(水) 授業開始、冬季休業12月23日(金)～1月9日(月)、1月10日(火) 授業再開、3月2日(木) 修了式。春季休業中、希望者は全学向け春季集中日本語講座（2月13日(月)～2月28日(火)）を受講した。

4. カリキュラム

未習クラスのカリキュラムは52期の内容とほぼ同じであったので省略する。

多少学習をしてきた学習者も、最初の1週間は特別クラスとして授業を行ったが、2週目以降は未習者と同じカリキュラムとした。

Web-CMJのクラスでは、3クラス全員で行い、あわせて質問も受け付けるクラスとした。

5. まとめと問題点

- (1) 前年度と同じく国費研究留学生の配置が10月期については少なくなっているが、法学研究科の国費留学生およびJICE（日本国際協力センター）支援無償留学生の受け入れがあるためクラス数の削減は難しい状況である。ただJICE（日本国際協力センター）の予算削減もあり、法学研究科で受け入れる初中級レベル以上の留学生には以前のようなきめの細かい対応はできなくなった。実際には、初中級レベル以上の学生には、午後に毎日1コマだけの補習授業を

おこなった。以下に付記として授業内容について記載しておく。

- (2) 今回研究留学生はすべて国際開発研究科の留学生であったが、指導教員の日本語授業への理解により、すべての留学生が欠席もなく熱心に学習に専念できたことは有り難いことであった。

付記：法学研究科留学生に対する特別日本語コースについて

今期法学研究科の受け入れた13名のうち、6名については上記日本語研修コースでの研修であったが、残りの7名については午前中全学集中日本語コース、午後1コマは日本語研修コース担当講師による特別授業を行ったため、その授業内容については、本稿で記録としてとどめることとする。

1. 受講生

初中級程度の修了生は、法学研究科JDSの学生6人で、本国で350時間程度、7月に来日後120時間程度の日本語学習を行っている。他の1名はすでに5年程度の学習歴があり、中級後半以上の力はあるが今回の特別プログラムに参加した。したがって、7名の日本語運用能力には少なからず差があることは分かっていたが、読解力を伸ばすことを目的にカリキュラムデザインを行った。

2. 時間割と日程

2005年10月13日(木)から2006年1月31日(火)までの64日間とし、冬季休業期間などは日本語研修コースと同じとした。時間は、毎日13時から14時半までの1コマである。

3. カリキュラム

このクラスの目標は、以下のように設定した。

- ・専門課程での教育に入る前段階として、日本に関する基礎的な知識を、読解、発表、作文、総合的な演習を通して養成する。

学習内容

読解：VTRなども使用し、現代の日本社会について学ぶ

10の素材の精読と、漢字310の学習

- ・日本の自然

- ・女性研究者は板挟み

- ・日本の人口構成

- ・日本の歴史

- ・日本の政治

- ・日本の会社組織

- ・就職活動

- ・フリーター

- ・日本の憲法

- ・ロボット

演習：テーマを設定し、日本事情について学ぶ

- ・日本の地理 日本人の持つ地理的な常識の紹介

- ・外国人労働者 日本社会への理解を深める

- ・公害問題

- ・裁判員制度 新制度の紹介

インタビュー活動

インタビューにより情報を集め、資料を作成し口頭発表を行う活動である。テーマは、名古屋大学の学生の生活に関するものと、自分の専門に関係のある分野について1回ずつ行った。自分の専門に関する分野では、司法試験を2これから受験する学生へのインタビュー、法律事務所で弁護士として活動している方へのインタビュー、および名古屋地方裁判所でのインタビューを行った。

総合演習：インタビュー活動と発表

今回は、名古屋市役所、名古屋地方裁判所、弁護士事務所を訪問し、1時間程度のインタビューを行った。

まとめ

今期から圧倒的に時間数が少なくなり、読解を中心としたカリキュラムとしたが、レベル差が大きく学習者にとっては必ずしもいい学習環境ではなかったにも拘わらず、非常にまじめに授業に取り組んでいた。午前に全学の日本語コースを受講し、午後に1コマの特別クラス編成であったが、この形態が日本語研修後の専門教育課程での運用にどのような影響を与えているのか気になるところである。レビューをする必要を感じる。今後法学研究科とも連絡をとり、さらに充実したカリキュラムとしていきたい。